

### 第3回イオンSATOYAMAフォーラムに参加しました（2026/2/18）

テーマ：イオン防災環境都市創生共同研究部門、災害科学  
会場：国連大学 ウ・タント国際会議場（東京都渋谷区）

2026年2月18日（水）、国連大学3階 ウ・タント国際会議場において、「第3回イオン SATOYAMA フォーラム」が開催されました。本フォーラムは、自然災害への事前防災から復旧・復興までにおいて、地域コミュニティや里山がもつレジリエンスが注目されているなか、連携する大学や企業、自治体、活動団体など多様なステークホルダーの視点から、発表・意見交換を行うものです。今年は、「里山・地域コミュニティがもつレジリエンス」をテーマに開催されました。

フォーラムは二部構成となっており、第一部では基調講演が行われました。当研究所の今村文彦副学長・教授（津波工学研究分野）が、演題「東日本大震災から15年 教訓とその伝承」のもと講演を行いました。グリーンインフラの持つ役割（根の重要性）および伝承活動の現状と期待を述べました。続く第二部では、イオン環境財団と共同で活動を行う5つの大学（国連大学、早稲田大学、京都大学、千葉大学、東京大学）をパネラーに招き、「里山・地域コミュニティがもつレジリエンス」をテーマにパネルディスカッションを行いました。当研究所の佐藤翔輔准教授（防災社会推進分野）がモデレーターを務め、里山の現場に根ざした取り組みを進めてきた関係者による、多様な連携の可能性と地域の備えを高めるための学びの共有が行われました。また、フォーラムの終盤には、事例紹介として、今村教授より当研究所イオン防災環境都市創生共同研究部門の活動として、イオンモール仙台上杉での共同研究活動の背景・目的・現在の活動についての報告が行われました。

フォーラムはハイブリッドにて行われ、盛会のうちに終了しました。



基調講演  
今村文彦教授



パネルディスカッション  
進行：佐藤翔輔准教授

文責：新家杏奈（イオン防災環境都市創生共同研究部門）  
佐藤翔輔（防災社会推進分野）